

優良賞

奥尻町立奥尻中学校 2学年 菊地 ひなの
拝啓、あなたへ



私には、7年近く文通している友人がいます。最近学校であったことなどのたわいもない話に、ふと心が動かされることもあり、忙しい毎日を過ごす私にとって、大切なやりとりとなっています。最初は「離れた場所にいるから」という理由で文通をしていましたが、ここ数年はお互いに「あえて」手紙を選んでいるように感じます。

インターネットでのやりとりが一般的な今、不便ではありますが、「手紙の方が思いを伝えやすく、また、伝わりやすいだろう」と考えているのです。

4月某日、私は片付けに追われていました。すると、同様に家の中を片付けていた母が、不可解な面持ちで近寄ってきました。

「こんなの見つけたの、ちょっと見てみて。」という母の手には一通の手紙。封筒の物静かなデザインからして、私宛てでないことは確実です。しかしそれ以外、何もわからない私をよそに、母は言葉を連ねます。

「これは、長万部に住んでいた、あなたの親戚のおじさんが、カニと一緒に送ってきてくれたものなんだけど...。」

母は、渡島北部の町、長万部に親戚が住んでいること、その人はもう亡くなっていること、手紙を出した4年後に亡くなったこと、私も一度家を訪ねた経験があることなどを、大雑把に教えてくれました。

けれども、訪ねたのが1歳ごろだったためか、全く覚えていません。

「それにしても、なんでこれだけとってあるのかなあ、たしか他のものは捨てたのに。」

それだけとってある？なぜ？どんな人かもわからない私に尋ねても答えは出ません。そこで、少し気が引けましたが、封を開けることにしました。その手紙の中身は、

『前略

長い間、なんのたよりもせず申し訳ないです 娘も大きくなって、元気であることと
思います なによりカニがあがったら送るつもりでまっていた 今年はじめ
のカニです』

綺麗とは言えない、とても荒っぽい字で書かれていました。その理由は、彼が左官職人だったことにあるそうです。少しずつ、丁寧に読み進め、2枚目。

『今年は奥尻いきたいです 息子と一緒にいきます みゆきちゃんのたまごやき、もう一度たべたいです あじは、未だにわすれる事できません きたない字で申し訳ないです なさけないおじさんですまない おやじにはくれぐれもよろしくつたえて下さい』

「みゆき」とは、私の母のことです。こうやって褒めてもらって、さぞ嬉しかっただろうと告げると、少し違うと答えられます。

「私とは血縁関係がないのに、しっかり覚えていてくれて、こうしてメッセージをくれたところ。それに嬉しさを感じたことが忘れられないから、手紙を捨てられずにいるのかもしれないね。」

同じ手紙でも、受け取った人によって伝わり方が変わるのです。両親へ宛てられたその手紙。まさか私が読むことになるなんて、思いもせませんでした。十年近い歳月を経て私の心へ蘇った伯父の思い。それは、未だ少し温かい気がします。

「思いを伝えること」。それがたとえどんな思いでも、どんな形になっても、どんなときだったとしても、言葉では言い表せない価値がうまれます。私の場合は自分の思いを表現する方法として文通が多かった、ただそれだけのことです。みなさんは、どうですか。自分の正直な気持ちを大切な人に伝えられていますか。私は、ぜひおそれずに自

分の本当の思いを大切な人に伝えてほしいと思います。伝えられずに後悔した経験や後味悪さを本当は誰もが知っているでしょう。

そのような経験を重ねないためにも、せつかく声で直接伝えられるこのチャンス。私の思いも、誰かの心へ届いていることを願ってやみません。